

実施日 令和5年11月22日(水)

場所 広島市豪雨災害伝承館 (広島市安佐南区)

参加者 8名 (井原、岡本、清川、田坂、福元、松森、三好、室田)

「広島市豪雨災害伝承館」について

『77人の犠牲を語り継ぐ被災者の思い』が詰まった場所

平成26年8月20日の広島土砂災害から9年が経ち、あの日の被害や教訓を伝える

「伝承館」が、一番被害が大きかった(犠牲者53名)八木地区に今年の9月

開館しました。被災した地元の人たちが広島市に熱心に要望して完成したもので

運営も担っています。

この施設には、当時の災害について展示するだけでなく、「学ぶ」という大きな役割があり、今回の我々の研修になった次第です。

伝承館館長(高岡様)の案内で、各々のスペースで詳細に説明していただきました。

ご本人は、ご自宅が土石流に押し流されたが、奇跡的に助かった被災者の方で、その話には「被災者たちの同じ経験をほかの人にしてほしくない」また、「その時に一番大事なものは命なんだ」との思いが伝わって来ました。

2階フロアの一災害を知る一展示スペースでは、土石流CGなどの映像や被害の全容、災害のメカニズム、復旧復興の状況などのパネルを見学しました。

次に、被災者による語り継ぎコーナーがありましたが、館長の体験談などの話で、多くは伝わって来ました。特に印象に残ったことは、

「土砂、巨大な石が滝のごとく流れて行って、人をつぶし、家をつぶしていった。

何が起きたのかわからなかったよね。土砂災害がここで起きるなんて、当時全く思わなかった。」

「被災後、地区ではお年寄りを中心に家にこもる人が多くなっていった。

何とかせにゃー。これが、モン・ドラゴン(被災者の交流施設)の始まり。

ここでは、お好み焼きを食べながら、気軽に話を交わすことができた。」

次に1階に進み、「学びを得られる場」の説明がありました。

悲惨な災害を語り継ぎ、災害を防ぐにはどうすればいいのか?モン・ドラゴンのメンバーら地域住民は、伝承館の計画段階から議論に加わり、施設のあり方について考えてきたとのこと。最も重視したのは、伝承館1階の研修施設で最大120名入れる研修室や防災学習、救急救命学習に必要な機材などを充実させたとのことでした。また、屋外には、かなどベンチも設置してあり、様々な防災体験ができるようになっていると感心しました。

結び 「つらい思いをされ被災された方は、子や孫たち、そしてすべての人に二度と経験してほしくないその思いを語り継ぎたい」

このことが本日訪問した伝承館の魂と思いました。

一方、沼田東町でも、裏山の山崩れ、ため池の氾濫、河川の氾濫などの豪雨災害や南海トラフ巨大地震など自然災害は起こり得ます。しかし、自分のこととして防災を考え、行動することは、なかなかうまく出来ないのが現状です。

そこには、「自分は大丈夫」「我が家は心配いらない」「そんな災害はすぐには起きない」のように、都合の悪い情報を無視するか過小評価してしまう

「日常的な正常性バイアス」が邪魔しています。

今回の研修で、このバイアスを少しでも取り除けたのではないのでしょうか。

一人でも多くの方が、「防災を自分のこと。家族のこと。地域のこと。」と考え、防災活動を進められれば、沼田東町が災害に強い地域になると考えます。



2階 映像・パネル展示

㊟店内展示物は撮影禁止

* 建物は斜面に立地しており、2階が正面入口となっています。



1階 屋外から